「自分は大丈夫」なんて思っていませんか？

どんなに願っても、「いつか」は必ずやってきます
「いつか」を想像しながら「自分の防災」を考えるマイ防災をはじめましょう

伊予市 高潮防災マップ はじめよう マイ防災

いつか起こる災害を知って、いざという時に備える

伊予市

わが家の連絡先リスト

家族の名前	生年月日	血液型	勤務先・学校名	電話番号	備考

ライフライン名	電話番号	ご近所さんのお名前	電話番号
病院（　　）			
ガス会社			
電力会社			
水道			

日曜・祝日の救急当番医　https://www.city.iyo.lg.jp/kenkou/kurashi/kenko/kyukyu/index.html

いざというときの連絡先

消防（火災・救急・救助）	119	海上保安庁（海の事件・事故）	118
警察（事件・事故）	110	NTT災害用伝言ダイヤル（安否確認）	171

市役所・支所・消防署など　伊予市の市外局番は「089」

施設名	所在地	電話番号	施設名	所在地	電話番号
伊予消防等事務組合消防本部・伊予消防署	下吾川 950-3	982-0119	伊予市役所	米湊 820	982-1111
			中山地域事務所	中山町出渕 2 番耕地 138	967-1111
中山出張所	中山町中山丑 508	967-1171	佐礼谷支所	中山町佐礼谷甲 816-1	968-0001
双海出張所	双海町上灘甲 5818-1	986-0074	双海地域事務所	双海町上灘甲 5821-6	986-1111
伊予警察署	伊予市下吾川 960	982-0110	下灘支所	双海町串甲 3670-16	987-0111

火災・救急病院の問い合わせ（テレホンサービス）　火災案内 982-8899　救急病院案内 982-5959

伊予市
制作：伊予市総務部危機管理課
〒799-3193　伊予市米湊820番地
TEL：089-982-1218
印刷：セキ株式会社
GREEN PRINTING pps 中部印刷株式会社 この印刷物は、環境に配慮した資材と工程で製造されています。
ミックス 責任ある木質資源を活用した紙 FSC® C006732

ハザードマップの作成にあたって使用した地図データは、国土地理院発行の数値地図（国土基本情報）の最新データですが、経年変化によって現状と一致しない箇所が発生しておりますのでご了承ください。ハザード情報については水害であればその位置を確認する参考図であり、洪浸予報図などを明示するものではありません。また、災害情報のデータや避難所などの防災情報は2022年3月現在のものです。今後変更になる可能性がありますのでご注意ください。本誌の表紙、巻頭記事及び地図については伊予市の承諾なしに複写、転載することはご遠慮ください。

2022年3月発行

避難先について

いざという時のために、家族で話し合って避難行動を決めておきましょう。

事前の確認

ハザードマップをよく見ること、避難ルートを歩いてみることが肝心です。

①ハザードマップで確認する
自宅周辺が高潮浸水想定区域に入っていないか、ハザードマップで浸水リスクを確認しましょう。避難所や土砂災害リスクのある場所もチェックします。

②家族会議で決めておく
どこへどのように避難するか、家族で話し合っておきましょう。避難先・避難ルート・誰と一緒か・何を持っていくかなどを検討します。

③避難シミュレーションを行う
平時の雨の日に、避難ルートを自分の足で歩いてみましょう。シミュレーションをしておくと、有事の際に落ち着いて行動できます。

避難先を考える

避難先は複数考えておきましょう。自宅の安全確保が可能なら在宅避難もOKです。

普段からどう行動するか、決めておこう！

市が指定した避難所に立ち退き避難
小中学校や公民館など。マスクや消毒液、体温計、スリッパなどは持参。

安全な親戚・知人宅に立ち退き避難
普段から避難することを相談して頼んでおく。（ハザードマップで安全を確認する）

安全なホテル・旅館に立ち退き避難
宿泊料が必要。事前に確認・予約する。（ハザードマップで安全を確認する）

在宅で屋内安全確保

3つの条件を満たせば在宅避難も可能

立ち退き避難が基本

基本は立ち退き避難ですが、小中学校などの指定避難所へ行くことだけが避難ではありません。避難所に集中しないよう分散避難の観点からも複数の避難先を考えておき、状況にあわせて選びましょう。
浸水害のおそれがある時は、条件を満たせば自宅等建物の上階へ避難して身の安全を守る屋内安全確保も可能です。

⚠ 逃げ遅れたら命を守る行動を！
災害が発生または切迫して外に出るのが危険な時、夜間で見通しがきかず事態が悪化している時などは、最終手段として下例のように直ちに身の安全を確保してください。ただし、これは次善の行動なので命の安全は保証されません。

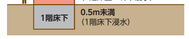
少しでも浸水しにくい高い場所に垂直避難する。

近隣の相対的に高く堅牢な建物の上階へ移動する。

ガケとは反対の、土砂がやってくる可能性の低い部屋に移る。

条件1
海岸の堤防を越えた波や堤防決壊で起こる氾濫流によって、家屋が流されたり壊されたりする危険のおそれがない。

条件2
想定されている浸水深より居室が高い。地下施設・空間のうち、利用形態と浸水想定から命の危険のおそれがない。



条件3
ゼロメートル地帯のような浸水が長時間継続する地域ではなく、水が引くまでの時間を過ごすことができる備え等が十分にある。

水・食料・薬などが十分にあり、電気・ガス・水道・トイレの使用不可にも耐えられる。

避難時のポイント

高潮が起こると数分でみるみる町が浸水します。空振りになっても早めに避難しましょう。

安全に避難するために

移動時のポイントを頭に入れておきましょう。

地下空間にいたらすぐ地上へ
地下へは水が一気に流れ込む。逃げ遅れる前に、すぐに地上に上がる。

ドアは水圧で開かなくなる
扉の外に30cm水がたまると水圧で扉が開かなくなるので、その前に避難。

川や橋、がけに近づかない
できるだけ川や橋、がけから離れて避難する。ルートは日頃から確認する。

車は使わず徒歩で避難
交通渋滞や緊急車両を妨害し、浸水時はエンジントラブルで立ち往生してしまうため。

切れた電線に触らない
切れた電線や垂れ下がった電線は、感電のおそれがあるので、触らない、近づかない。

家を出る前に火の元等の確認
ガスの元栓を閉めてブレーカーを落とす。カギをかけて避難先のメモを残す。

避難の心得

避難時の心構えをおさえておきましょう。

その1　正確な気象情報を収集する
テレビ・ラジオ、防災行政無線などから正確な情報を集める。

その2　自主的に早めに避難する
暗くなる前や暴風になる前に、早めの自主避難を心がける。

その3　単独行動はしない
必ず二人以上で、動きやすい服装で行動する。

その4　無理をしない
逃げ遅れたら、無理をせずに、高い所で命を守る行動を。

その5　協力しあって避難する
日頃からコミュニケーションを大切にし、隣近所に声をかけあって避難する。地域のどこに自力で避難できず支援を必要とする人がいるか、できるだけ把握しておく。

高齢者・病人　体の不自由な人　目や耳の不自由な人　外国人

⚠ 災害に弱い人の避難は、より早めに行いましょう。

大雨や台風接近時の注意

- **貴重品や電気製品などを高い所へ移す**
- **田んぼや畑、用水路の見回りをしない**
- **洗濯やお風呂の排水を控える**
- **排水溝や雨水ますの水が流れるように**
- **冠水道路に車で進入しない**

浸水リスクがある場合は、書類や貴重品、電気製品、アルバムなどを高い所へ移動させる。

増水した用水路と道との境がわからないため、農業用水路に転落する死亡事故が発生している。

洗濯機を回さない、風呂の湯を抜かないなど排水を控える。下水の逆流を防ぐため、水のうを置く。

屋外の排水溝や道路上の雨水ますを掃除して、土砂や落ち葉による詰まりを解消する。

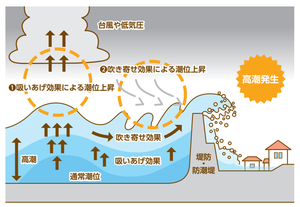
水深30cm程度で吸気口やマフラーから浸水し、エンジンが停止して再始動しなくなる。

高潮について知ろう

危険な場所や時間を知って適切な避難行動につなげましょう。

高潮のメカニズム

台風のような強い低気圧がやってくると、波が高くなると同時に、短時間のうちに急激に海面が上昇します。これが高潮で、海水が内陸部に入って浸水が始まると、被害は一気に広がります。高潮の発達には次の2つのメカニズムが作用しています。



① 気圧低下による「吸い上げ」
気圧の低下に伴い、ストローで吸い上げられるように海面が上昇する「吸い上げ」効果。気圧は1hPa（ヘクトパスカル）下がると海面は1cm上がります。日本周辺の平均気圧は約1,013hPaなので、台風の中心が910hPaぐらいだと、中心の海面は約1m上がることになります。

② 風による「吹き寄せ」
海から陸側へ強風が吹き続けることで、海水が吹き寄せられて海面が上昇する「吹き寄せ」効果。海面上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。また、水深の浅い遠浅の海や、湾が長いほど、海面上昇が大きくなります。

風速が大きく、湾が長く、水深が浅いほど、海水面が上昇します

危険な地形と時間帯

●海岸付近の低地（ゼロメートル地帯）

平均海水面より低い土地は、堤防が決壊すると海水が流れ込んで浸水する。

●湾奥部・港内

湾奥は吹き寄せられた海水が集まり、港内は陸地と海面の差が小さいため、危険。

●河口部

高潮の流入と川の流れがぶつかったため潮位が上がる。洪水のおそれも。

●満潮時

満潮と高潮が重なると、いっそう海面が上昇するので、リスクが高くなる。

●台風進路の右側

台風の中心から東側は特に風が強いので、吹き寄せ効果が強く働く。

●河川の氾濫にも注意
高潮は津波のように河川を遡り、川の堤防を越えて氾濫することもあります。沿岸地域だけでなく、河川沿いの地域も高潮の影響を考慮しておきましょう。

高潮の多大な被害をもたらした台風

●市街地に被害をもたらした高潮（香川県高松市）
2004（平成16）年8月31日に襲来した台風16号。年間で最も潮位が高くなる時期と台風が一致したうえ、気圧の低下の吸い上げ効果による海面上昇、強い風による吹き寄せという3つの条件が重なり、瀬戸内地方に大きな被害をもたらした。高松港では観測史上最高の2.46mを記録した。

高潮の被害状況
香川県高松市では、30日午後9時過ぎから沿岸部の道路が冠水し始め、河川沿いに海水が逆流し、沿岸から約2km離れた木太町にまで達した。中央商店街や地下道は川のような状態になり、市内1万5,000戸以上が浸水、水没した自動車内や自宅の居間で水死した人も出た。ライフラインは道路ふさぎ、冠水による自動車の車両火災も頻発した。

夕方になっても水が引かなかった高松市福岡町の冠水状況。水が引いた後は道路にゴミの山が残り、後々まで住民の大きな負担となった。
（写真提供　国土交通省四国地方整備局）

●伊予市における過去の高潮災害
1991（平成3）年9月27日～ 28日に襲来した台風19号。強風と満潮の悪条件が重なった中予沿岸部では、高潮により広範囲にわたる床上・床下浸水や畑の冠水などの被害をもたらした。伊予市では、下吾川の新川などで高潮を受けて海岸堤防4カ所が決壊し、後背地が浸水。隣接する松前町とあわせて637戸が浸水した。また、双海町上灘でも家屋の浸水被害が発生した。

住民の証言
「午後7時過ぎまで停電が断続してあり、8時に海水が堤防を乗り越え床上50cmになった。9時20分頃堤防がゴーっという音をたてて崩れ、大量の海水がドッと押し寄せてきたので、近所3世帯と一緒に命からがら脱出した。水位は腰まであった。」
（愛媛県「中予地域災害情報データベース」より）

避難情報・風雨の目安

防災気象情報の種類と内容・避難情報を知っておきましょう。

避難のタイミングを伝える

市町村は、雨や河川の情報のほか地域の土地利用や災害実績などを踏まえて、総合的に避難情報（警戒レベル）を発令します。気象情報などで早めに自主避難を行い、避難情報で確実に避難しましょう。

警戒レベル	市民の皆さんがとるべき行動	避難情報など	警戒レベル相当情報
警戒レベル5 命の危険 直ちに安全確保	災害が発生・切迫している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保（伊予市が発令）※	大雨特別警報 など
〈警戒レベル4までに必ず避難！〉			
警戒レベル4 危険な場所から全員避難	速やかな避難行動をとりましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示（伊予市が発令）	高潮特別警報 高潮警報 など
警戒レベル3 危険な場所から高齢者等は避難	ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児など避難に時間がかかる人とその支援者は避難行動をとりましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難（伊予市が発令）	高潮注意報（警戒に切り替える可能性が高いもの）など
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。		大雨注意報 など（気象庁が発表）
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。		早期注意情報（気象庁が発表）

※可能な範囲で発令されるものであり、必ずしも発令されるものではないことに注意してください。

高潮に関する気象注意報・警報

▶高潮注意報
台風などによる異常な海面の上昇により、災害が起こるおそれがあるときに発表されます。

→

▶高潮警報
台風などにより異常な海面の上昇により、重大な災害の起こるおそれがあるときに発表されます。

→

▶高潮特別警報
数十年に一度の強度の台風などによる異常な海面の上昇により、重大な災害の起こるおそれが著しく大きい場合に発表されます。

風の強さと被害

平均風速（m/秒）	10以上15未満	15以上20未満	20以上25未満	25以上30未満	30以上35未満	35以上40未満	40以上
風の強さ（予報用語）	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風		
おおよその時速	～50km	～70km	～90km	～110km	～125km	～140km	140km～
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業は きわめて危険。	何かにつかまってないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。		
屋外・樹木の様子	樹木全体が揺れ始める。	電線が唸り始める。看板やトタン板が外れ始める。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。		多くの樹木が倒れる。電柱や街灯が倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。		
走行中の車	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中で横風に流されて感覚を覚える。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	通常の速度で運転するのが困難になる。		走行中のトラックが横転する。		
おおよその瞬間風速	20m/秒	30m/秒	40m/秒		50m/秒		60m/秒

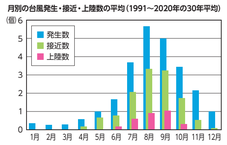
台風の知識と備え

台風被害を防止・軽減するために、正しい知識を身に付けて、事前の備えをしておきましょう。

台風の発生と進路

台風の定義
熱帯の海上で発生する熱帯低気圧のうち、台風の北西太平洋や南シナ海にあって最大風速が17m/秒以上のものを台風と呼びます。温暖化による海水温上昇のため、勢力が衰えないまま日本にやってくる台風が増えていくと言われています。

月別の台風発生・接近・上陸数の平均（1991～2020年の30年平均）



30年間の平均では、年間で平均25個発生、そのうち12個ほどが日本に接近して約3個が日本に上陸。発生・接近・上陸ともに、7月から10月にかけて多くなっています。

気象情報、避難情報等を収集し、早めの避難をすることが命を守ります。
台風の接近・通過時は、こまめにチェックしましょう。

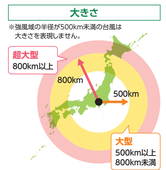
台風の強さと大きさ

台風の勢力
勢力の目安は、風速をもとに「大きさ」と「強さ」で表します。
- **大きさ：**強風域（風速15m/秒以上の風が吹いているから、吹く可能性がある範囲）の半径で区分。
- **強　さ：**最大風速で区分。

※強風25m/秒以上の風が吹いているから、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

台風情報ではこの二つを組み合わせて**「大型で強い台風」**のように表現します。

大きさ
※強風域の半径が500km未満の台風は大きさを表現しません。



強　さ
※最大風速33m/秒未満の台風は強さを表現しません。

- **●強い台風**　最大風速33m/秒以上44m/秒未満
- **●非常に強い台風**　最大風速44m/秒以上54m/秒未満
- **●猛烈な台風**　最大風速54m/秒以上

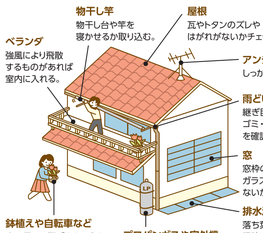
小石が飛び散り、一部の木造家屋が倒壊。

木造家屋の多くが倒壊し、樹木も倒れる。

鉄塔が曲がる。

台風対策をしておこう

家の外の点検



注意！ 海や川に近づかない。むやみに外出しない。
高潮や高波が起きやすいので海岸や川に近づかない。やむをえない外出は、暴風や突風におそわれないよう傘をささずにレインコート着用で。

家の中の準備

停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの準備、スマホやモバイルバッテリーの充電をする。

窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る。飛来物に備えてカーテンやブラインドをおろす。

ライフラインが途絶えた時を想定して水や食料、常用薬などを備蓄しておく。

断水に備えて飲料水を確保し、浴槽に水を張るなど生活用水を確保する。

窓はすべて施錠する。雨戸のある所は閉めて、雨戸のない窓は周囲を目張りする。

避難に備えて非常持ち出し品を入れた袋の中身をチェックする。

情報収集と家族の連絡方法

災害後、正しい情報をいち早く手に入れることが重要です。情報の入手方法を事前に知っておきましょう。

情報の入手方法

複数の方法での情報入手を普段から利用しておきましょう。

①メール配信
緊急速報メール・エリアメール（事前登録不要）
携帯電話での災害時専用の情報発信。気象庁が発信する緊急地震速報が一斉配信される。

配信イメージ
緊急地震速報（警報）　大津波警報・津波警報　気象等に関する特別警報

②テレビ・ラジオ
Lアラート（災害情報共有システム）を通じて、テレビやラジオで伊予市が発表する災害対策本部の設置、避難所の開設、避難指示などの情報を放送。災害の心配があるときは、テレビやラジオをつけておくこと。

●伊予市からの情報をテレビで
令和3年度からテレビ愛媛で、行政情報をリアルタイムで確認できる。災害時には市からの防災情報が届く。

テレビ愛媛　操作方法
1. テレビのｄボタンを押す
2. メニューから「地取の広報」を押す
3. 「伊予市」を押す
4. 見たい項目のタイトルを押す

③伊予市公式SNS
過去の災害でTwitterなどSNSは比較的繋がりやすかったという声がある。情報収集方法の一つとして活用を。

●伊予市危機管理Twitter
伊予市総務部危機管理課から災害情報などを発信

●伊予市の公式LINE開始
令和4年2月から伊予市公式LINEがスタート。災害時の緊急情報が届くほか、道路や河川等の異常を報告できるメニューも。

④伊予市公式ホームページ
災害の状況を詳しく知りたい場合に役立つ。各種警報や避難情報などの発令状況、被害状況、道路状況など掲載。

⑤伊予市防災行政無線
災害時に市内150ヶ所の屋外スピーカーからの防災・災害情報が放送される。聞こえにくい場合や、再度聞きたい場合は電話で確認できる。

●電話応答サービス　TEL 089-946-7977（要・通話料）

⑥スマホアプリ
信頼できる情報を自動で入手できるアプリ選んでおく。

（役立つアプリ例）
Yahoo！防災速報　愛媛県避難支援アプリ「ひめシェルター」
避難情報や、自治体からの緊急情報をリアルタイムで通知する。
防災情報、避難所開設情報などが届き、地図で避難先が分かる。
Android 版　IOS 版

⑦広報車
市有車両や消防団車両によるマイク放送。

コラム column「バイアス」と「デマ」

●バイアスとは？
危険が迫っていても、自分は大丈夫と状況を過小評価してしまうことがあります。「正常性バイアス」という、自らの心を落ち着けようとする心理作用です。逃げ遅れの原因となることを知っておきましょう。

●デマに注意
災害後はデマが広がりやすくなります。信頼できる情報源から入手するようにしましょう。

家族との連絡の取り方

非常時の連絡方法は複数使えるようにしておきましょう。
あらかじめ家族で下記の連絡ルールを決めておくことが大切です。
①集合場所・避難場所　②災害時の連絡手段　③自宅に行き先のメモを残す場所・方法

〈災害用伝言サービス〉

災害用伝言ダイヤル「171」
被災地域の市外局番から始まる自宅番号宛に安否情報を音声で録音（30秒）。全国からその音声を再生・確認できる。

災害用伝言版web171
インターネットでの安否確認。家族とあらかじめ決めている登録の電話番号に音声・文字を入れると、メールや電話で伝言が届く。

災害用伝言板サービス
携帯電話各社が提供するもので、スマートフォンや携帯電話から安否情報の伝言を文字で登録すると、全国から伝言が確認できる。

チェック！
- **●公衆電話対策**
  - ・どこにあるか確認
  - ・使い方を子どもに教える
  - ・小銭を用意
- **●連絡先の備え**
  - ・大切な電話番号はスマホ以外にも記録
  - ・家族の交友関係や連絡先を把握
- **●三角連絡法**
  災害時は電話がつながりにくくなる。災害関係にいる親戚や知人を中継地点にすると、比較的スムーズに連絡が取れる場合がある。